

令和 6 年 6 月 15 日現在

機関番号：12604

研究種目：若手研究

研究期間：2020～2023

課題番号：20K14231

研究課題名（和文）社交不安における自己注目リアルタイム測定とバーチャルリアリティ介入システムの開発

研究課題名（英文）Development of real-time self-focused attention measurement and virtual reality intervention system for social anxiety

研究代表者

富田 望 (Tomita, Nozomi)

東京学芸大学・教育学部・特任講師(種)

研究者番号：30823364

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究課題では、社交不安症の維持要因である自己注目（自分自身への過度な注意）に着目し、個体側の生理的な情報から自己注目状態をリアルタイムに測定し、介入するためのバーチャル・リアリティ（VR）のシステム開発に取り組んだ。他者からの視線といった刺激をVRに組み込む必要性を生態学的経時的評価法によって明らかにした上で、VRを用いた自己注目のリアルタイム評価システムを開発した。また、VR上の映像の変化によって自己注目状態をフィードバックするシステムを開発し、フィージビリティスタディを実施した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

眼球情報を用いた自己注目状態のリアルタイム評価法とフィードバック法を開発したことにより、社交不安者が自己注目を自覚できない状況でも、眼球情報を用いて自己注目を評価し、VRを活用したオペラント学習によって自己注目を低減できる可能性が期待できる。また、複数の基礎研究を通じて、自己像、他者の視線、メタ認知的信念など、自己注目の発生要因や維持要因が明らかにされ、学術的にも重要な知見が得られた。

研究成果の概要（英文）：This study focused on the maintenance factor of social anxiety disorder, self-focused attention (SFA), and developed a virtual reality (VR) system to measure and intervene in SFA in real time using physiological information. Ecological momentary assessment clarified the necessity of incorporating stimuli like others' gazes into the VR environment. Based on this result, we developed a real-time SFA evaluation system using VR. A system that provides feedback on SFA through changes in VR visuals was also created, and a feasibility study was conducted.

研究分野：臨床心理学

キーワード：社交不安症 自己注目 視線計測 バーチャル・リアリティ

1. 研究開始当初の背景

社交不安症とは、対人場面での緊張によって社会生活に深刻な障害を及ぼす疾患である。10人に1人もの者がその診断基準を満たし (Kessler et al., 2005)、本邦での推定労働損失額は年間一兆円を超える (亀井, 2009)。また、疾患レベルにない者にも心理的特徴に連続性があり、社会的損失はさらに大きいと想定される。

社交不安の維持要因については、自分のことばかりに注意が向き目の前のことに集中できない「自己注目」が中核的な問題とされている (Clark & Wells, 1995)。たとえば、「他者から否定的な印象を抱かれているのでは」といった自己イメージや身体感覚への注意が挙げられる。しかしながら、自己注目は内的な現象であるため客観的に測定することが難しく、その本質的理解を進めることは困難であった。そこで、自己注目時の脳活動 (Boehme et al., 2015) や視線の動き (Vriends et al., 2017) から自己注目を可視化する研究によって、そのメカニズムを解明する試みがなされるようになってきた。研究代表者は、スピーチ場面において自己注目が生じた時の眼球運動と脳活動の同時計測を実施し、視線の移動距離 (スキャンパス) の短さや否定的な反応をする他者を回避する眼球運動が自己注目の客観的指標となる可能性を明らかにした (Tomita et al., 2019; Tomita et al., 2020)。さらに、実験時に課題以外の思考に没頭すると、瞬目数が増加し、瞳孔径が縮小することも報告されている (e.g. Smilek et al., 2010)。

従来は、質問紙を用いて対人場面後に回顧的に自己注目の程度を測定する方法が一般的であったが、上記の指標を用いることで、本人に回顧的に質問することなく、本人が自己注目を自覚していない場合においても、自己注目状態をリアルタイムに計測することが可能となり、さらにはリアルタイムにフィードバックすることが可能となる。しかしながら、これらをアセスメントや介入に活用する上で、以下の課題点が挙げられる。第一に、社会的場面における自己注目状態をリアルタイムに計測するシステムを完成させるためには、時々刻々と変化する自己注目の変化に伴って、上記の指標が変化するかを確認する必要がある。Tomita et al. (2020) は参加者内の比較研究であるが教示操作を行っており、Tomita et al. (2019) は参加者間の比較研究であるため、個人内の自己注目の細かな変動を眼球情報が予測できるのかは検討されていない。また、スピーチ課題中の瞬目数や瞳孔径と自己注目との関連性を調べた研究はない。第二に、自己注目が生じやすい状況の中であえて訓練を行うことで介入効果を高められることが期待できるが、日常のどのような刺激が自己注目の引き金となるのかは明らかでない。第三に、SADには脅威的な他者を見てしまうというもう一つの注意の問題があるため、自己注目状態をリアルタイムにフィードバックする際には、何を見たらよいかを含めて訓練をする必要がある。

2. 研究の目的

本研究課題では、個体側の生理的な情報から自己注目状態をリアルタイムに測定するバーチャル・リアリティ (VR) のシステムを開発すること、日常に近い場面を設定した上で自己注目の変容を訓練する VR のプログラムを開発することを目的とした。

また、上記の目的と関連して、メタ認知療法 (Wells & Matthews, 1994) の基礎理論において指摘されてきた、メタ認知的信念と注意の偏り (自己注目を含む) との関連性を実証的に明らかにすること、日常の社会的場面において自己注目を誘発しやすい刺激を明らかにすること、自己像や非対面場面が自己注目に及ぼす影響を明らかにすることも目的とした。

3. 研究の方法

(1) 自己注目の作用機序を明らかにするための基礎研究として、社交不安症状、表情への注意の偏り、注意の向け方に関するメタ認知的信念の関連性を実験研究により検討した。大学生 55 名を対象に、社交不安症状を測定する尺度である「Liebowitz Social Anxiety Scale 日本語版 (LSAS-J; 朝倉他, 2002)」、注意の偏りに関するメタ認知的信念を測定する尺度である「高社交不安者における注意の向け方に関するメタ認知的信念尺度 (富田他, 2020)」への回答を求めた。また、注意の偏りを測定するドット・プローブ課題を実施し、質問紙得点との関連性を検討した。

(2) 自己注目を誘発する環境側の刺激を明らかにするために、生態学的経時的評価法 (Ecological Momentary Assessment: EMA; Shiffman et al., 2008) を用いて、日常生活の社交場面で知覚される様々な刺激と自己注目との関連性を検討した。LSAS-J (朝倉他, 2002) が 30 点以上の大学生と大学院生 22 名を対象として、Web アンケートによる EMA 調査を 10 日間実施した。アンケートの URL が記載された E メールを 1 日 3 回参加者に送信し、回答時から過去 5 時間以内に経験した社交場面、社交場面で知覚した 9 個の刺激、自己注目の程度について回答を求めた。

(3) 社交不安症における自己注目状態をリアルタイムで検知・フィードバックするシステムを開発するために、インタラクティブバーチャルリアリティスピーチシミュレーションシステム (Liao et al., 2018) を用いた、フィジビリティスタディを実施した。本システムは、VR 上

でスピーチ課題を行うプログラムであり、実験参加者（発話者）の反応によって聴衆であるアバターのフィードバックが変化するという相互作用が組み込まれている。大学生1名を対象に、VR上でスピーチ課題を実施した。

(4) VRを用いた自己注目低減プログラムを作成するにあたり、自己像や非対面場面が自己注目に及ぼす影響を明らかにするために、大学生37名を対面スピーチ・自己像有り（鏡を呈示）群、対面スピーチ・自己像無し群、オンラインスピーチ・自己像有り（参加者自身のビデオをオンにする）群、オンラインスピーチ・自己像無し群に振り分け、スピーチ課題中の不安、自己注目、客観的な視点の程度を比較した。

(5) 聴衆のいるスピーチ場面を再現したVR空間の中で自己注目の程度を定期的に評定するシステムを開発し、自己注目の変動に合わせて、スキャンパス、注視回数、瞬目数が変動するのかを明らかにするための実験研究を行った。このVRシステムは、スピーチ評定者が映ったVRを視聴しながらスピーチ課題を6分間行い、30秒に1回の頻度で、どの程度自己注目をしてきたかを呈示された画面に従って0-100で回答するプログラムになっている。また、スキャンパス、注視回数、瞬目数を計測できるVRゴーグルを用いて、VR視聴中の眼球情報と自己注目度の関連性を検討した。

4. 研究成果

(1) ドット・プローブ課題を用いた実験研究の結果、社交不安高群において怒り顔と笑顔への注意の偏りが示された。また、媒介分析の結果、怒り顔への注意の偏りと社交不安症状の関連性は、ネガティブなメタ認知的信念により完全媒介された。以上より、注意の偏りへの介入が社交不安症状の改善に奏功する上で、メタ認知的信念が重要な役割を有している可能性が示唆された。

(2) EMAを用いた調査の結果、分析対象となる321回分の回答が得られた。各刺激を独立変数、自己注目を従属変数としたマルチレベル重回帰分析等を行った結果、「他者からの視線」、「他者からの評価」、「権威のある人」が知覚されると身体感覚への自己注目が生じやすく、上記に加えて「知り合いの人」が知覚されると観察者視点による自己注目が生じやすいことが示された。特に視線については、視線への恐怖度に関わらず、2種類の自己注目を高めることが示された。

以上より、自己注目が生じやすい刺激をVR上にあえて呈示し、その中でも注意を柔軟にコントロールする訓練を行うプログラムを開発する上で、上記の刺激を呈示することが有用であることが考えられた。

(3) フィージビリティスタディの結果、VRでのスピーチ課題によって、状態不安、自己注目、外的な脅威刺激（アバターの聴衆）に対する注意バイアスが高まることが各尺度得点の変化によって確認された。今後は、本システムを用いてデータを収集するとともに、フィードバックのシステムを改良していく必要がある。

(4) 非対面環境や自己像が自己注目に及ぼす影響を検討した実験研究の結果、オンラインや対面に関わらず、自己像が有る場合は無い場合と比較してスピーチ中の自己注目が低減することが示された。

(5) 現時点で収集した60個のデータについて途中経過の解析を行った結果、対象者の社交不安傾向に関わらず、スピーチ中に自己注目が高まるほどスキャンパスが短くなることが示された。また、社交不安傾向が高い者において、スピーチ中に自己注目が高まるほど注視回数が減ることが示された。一方、瞬目数については、自己注目の変動と有意な関連は示されなかった。以上より、スピーチ中におけるスキャンパスと注視回数を計測することで、社会的場面における自己注目状態をリアルタイムに推定できる可能性が考えられた。今後は、引き続きデータ収集を行い、開発したシステムの精度を検証する必要がある。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計15件（うち査読付論文 13件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 13件）

1. 著者名 Tomita Nozomi, Katayama Hiroki, Kurihara Yuto, Takahashi Toru, Shibata Sumiya, Mima Tatsuya, Osu Rieko, Kumano Hiroaki	4. 巻 18
2. 論文標題 Tackling social anxiety with targeted brain stimulation: investigating the effects of transcranial static magnetic field stimulation on self-focused attention	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Frontiers in Behavioral Neuroscience	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3389/fnbeh.2024.1373564	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Nanamori Mao, Tomita Nozomi, Kametani Chiaki, Matsuda Naomi, Kumano Hiroaki	4. 巻 17
2. 論文標題 Triggers of self-focused attention: an ecological momentary assessment study	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 BioPsychoSocial Medicine	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s13030-023-00273-6	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 亀谷 知麻記、富田 望、武井 友紀、梅津 千佳、熊野 宏昭	4. 巻 49
2. 論文標題 他者からの肯定的・否定的評価への恐れによる表情刺激への注意バイアスの特徴—健常大学生における検討—	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 認知行動療法研究	6. 最初と最後の頁 1~10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24468/jjbct.21-022	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 佐藤 瑠美、管 思清、片山 広大、富田 望、熊野 宏昭	4. 巻 28
2. 論文標題 マインドワンダリングの意図性に伴う瞳孔径変動の検討	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 行動医学研究	6. 最初と最後の頁 42-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11331/jjbm.28.42	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 富田 望、熊野 宏昭	4. 巻 42
2. 論文標題 不安症の機能画像研究	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 精神科	6. 最初と最後の頁 195-201
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 富田 望、熊野 宏昭	4. 巻 14
2. 論文標題 【2022年日本不安症学会学術賞記念論文】社交不安における自己注目と他者注目を脳領域と視線情報から可視化する	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 不安症研究	6. 最初と最後の頁 19-28
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.14389/jsad.14.1_19	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 柳田 綾香、富田 望、熊野 宏昭	4. 巻 35
2. 論文標題 自己像の呈示が自己認識に与える影響 社交不安者へのビデオ通話カウンセリングに向けてのナラティブレビュー	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 人間科学研究	6. 最初と最後の頁 325-332
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 南出 歩美、富田 望、亀谷 知麻記、武井 友紀、梅津 千佳、熊野 宏昭	4. 巻 48
2. 論文標題 社交不安症状と表情への注意バイアス、および注意の向け方に関するメタ認知的信念の関連性	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 認知行動療法研究	6. 最初と最後の頁 47-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24468/jjbct.20-038	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Tomita Nozomi, Kumano Hiroaki	4. 巻 42
2. 論文標題 Self-focused attention related to social anxiety during free speaking tasks activates the right frontopolar area	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Current Psychology	6. 最初と最後の頁 10310-10323
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s12144-021-02319-w	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 富田 望、甲斐 圭太郎、南出 歩美、熊野 宏昭	4. 巻 47
2. 論文標題 自己注目誘発音を用いた注意訓練法の作成と社交不安傾向者に対する効果の検討	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 認知行動療法研究	6. 最初と最後の頁 261-272
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24468/jjbct.20-037	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 武井 友紀、藤島 雄磨、富田 望、南出 歩美、梅津 千佳、熊野 宏昭	4. 巻 26
2. 論文標題 ディタッチト・マインドフルネスに関するメタ認知的知識尺度の作成および信頼性と妥当性の検討	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 行動医学研究	6. 最初と最後の頁 96-105
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11331/jjbm.26.96	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 片山 広大、富田 望、二瓶 穂香、高橋 徹、栗原 勇人、芝田 純也、美馬 達哉、大須 理英子、熊野 宏昭	4. 巻 21
2. 論文標題 経頭蓋静磁場刺激が自己注目状態時の前頭前野に与える影響の予備的検討	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 早稲田大学臨床心理学研究	6. 最初と最後の頁 35-41
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 藤島 雄磨、梅田 亜友美、池田 寛人、高橋 恵理子、富田 望、熊野 宏昭	4. 巻 26
2. 論文標題 不適応的な対処行動に関するメタ認知的信念と能動的注意制御機能およびディタッチト・マインドフルネスとの関連性	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 行動医学研究	6. 最初と最後の頁 16-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11331/jjbm.26.16	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Usui Kaori, Kawashima Issaku, Tomita Nozomi, Takahashi Toru, Kumano Hiroaki	4. 巻 125
2. 論文標題 Effects of the Attention Training Technique on Brain Activity in Healthy University Students Assessed by EEG Source Imaging	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Psychological Reports	6. 最初と最後の頁 862-881
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/0033294120988100	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 朴木 優斗、管 思清、小口 真奈、高橋 徹、仁田 雄介、富田 望、熊野 宏昭	4. 巻 33
2. 論文標題 事象関連電位P300を用いた能動的注意制御機能の測定法	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 人間科学研究	6. 最初と最後の頁 279-286
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計36件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 8件)

1. 発表者名 Hoshino Madoka, Tomita Nozomi, Nanamori Mao, Yanagida Ayaka, Kumano Hiroaki
2. 発表標題 Feasibility study for creating the interactive VR speech task for individuals with high social anxiety
3. 学会等名 8th Asian CBT Congress (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Tomita Nozomi、Minamide Ayumi、Kumano Hiroaki
2. 発表標題 A three-wave longitudinal survey to examine how self-focused attention and metacognitive beliefs affect social anxiety
3. 学会等名 10th World Congress of Cognitive and Behavioral Therapies 2023 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Yanagida Ayaka、Tomita Nozomi、Uchida Taro、Kumano Hiroaki
2. 発表標題 Effects of self-images on videoconferencing screens to Self-focused attention in social anxiety disorder
3. 学会等名 10th World Congress of Cognitive and Behavioral Therapies 2023 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Nanamori Mao、Tomita Nozomi、Matsuda Naomi、Minamide Ayumi、Kumano Hiroaki
2. 発表標題 Examination of the cognitive processes in everyday social situations based on metacognitive therapy
3. 学会等名 10th World Congress of Cognitive and Behavioral Therapies 2023 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 七森 真央、富田 望、松田 尚実、南出 歩美、熊野 宏昭
2. 発表標題 日常生活下における自己注目の生起プロセスを捉える：生態学的経時的評価法（EMA）を用いた検討
3. 学会等名 第15回日本不安症学会学術大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 星野 円花、七森 真央、富田 望、柳田 綾香、熊野 宏昭
2. 発表標題 高社交不安者を対象とするVRスピーチ課題完成に向けたフィージビリティスタディ
3. 学会等名 日本認知・行動療法学会第49回大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 七森 真央、柳田 綾香、富田 望、熊野 宏昭
2. 発表標題 視線知覚と社交不安症の関連における文献レビュー
3. 学会等名 日本認知・行動療法学会第49回大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 柳田 綾香、富田 望、熊野 宏昭
2. 発表標題 ビデオ通話の構造が社交不安者の疲労感に与える影響
3. 学会等名 第23回日本認知療法・認知行動療法学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 七森 真央、柳田 綾香、富田 望、熊野 宏昭
2. 発表標題 Cone of Direct Gazeを測定する視線知覚課題の開発
3. 学会等名 第23回日本認知療法・認知行動療法学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 富田 望
2. 発表標題 大会企画シンポジウム15：バーチャルリアリティと認知行動療法 社交不安症に対するバーチャル・リアリティを用いた自己注目低減プログラムの開発
3. 学会等名 第23回日本認知療法・認知行動療法学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 富田 望
2. 発表標題 大会企画シンポジウム4：神経・認知・行動療法への展開 社交不安の自己注目に対する経頭蓋静磁場刺激を用いた支援の提案
3. 学会等名 第23回日本認知療法・認知行動療法学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 佐藤 瑠美、管 思清、富田 望、熊野 宏昭
2. 発表標題 瞳孔径変動を用いた意図的・非意図的マインドワンダリングと課題集中状態との比較
3. 学会等名 日本認知・行動療法学会第49回大会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 富田 望
2. 発表標題 社交不安における自己注目を実験研究から捉える
3. 学会等名 日本認知・行動療法学会第48回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 富田 望
2. 発表標題 脳科学によるアセスメントと介入法が社交不安症への支援にもたらすソリューション
3. 学会等名 日本認知・行動療法学会第48回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 平山 千洋、南出 歩美、富田 望、熊野 宏昭
2. 発表標題 社交不安傾向者における注意の偏りに関するメタ認知的信念への介入が主観的な注意制御機能に与える影響の検討
3. 学会等名 日本認知・行動療法学会第48回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 七森 真央、富田 望、松田 尚美、南出 歩美、熊野 宏昭
2. 発表標題 日常生活下の社交場面における自己注目の誘発要因の検討
3. 学会等名 日本認知・行動療法学会第48回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 柳田 綾香、富田 望、内田 太朗、熊野 宏昭
2. 発表標題 社交不安者へのビデオ通話カウンセリングにおける自己映像の影響に関する文献レビュー
3. 学会等名 日本認知・行動療法学会第48回大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 富田 望
2. 発表標題 第2回日本不安症学会学術賞 授賞式・受賞講演 Self-focused attention related to social anxiety during free speaking tasks activates the right frontopolar area
3. 学会等名 第14回日本不安症学会学術大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 富田 望
2. 発表標題 教育講演5 社交不安のメタ認知療法 基礎と臨床
3. 学会等名 第14回日本不安症学会学術大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 富田 望
2. 発表標題 CTワークショップ12 メタ認知療法：社交不安に特化した注意訓練法の開発と評価
3. 学会等名 第18回日本うつ病学会総会 / 第21回日本認知療法・認知行動療法学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 宇佐美 慧、富田 望、南出 歩美、熊野 宏昭
2. 発表標題 メタ認知療法における認知プロセスの類型化
3. 学会等名 第47回日本認知・行動療法学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 片山 広大、富田 望、二瓶 穂香、高橋 徹、栗原 勇人、芝田 純也、美馬 達也、大須 理恵子、熊野 宏昭
2. 発表標題 経頭蓋静磁場刺激が自己注目状態時の前頭前野に与える影響の予備的検討
3. 学会等名 第47回日本認知・行動療法学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 亀谷 知麻記、南出 歩美、富田 望、熊野 宏昭
2. 発表標題 他者評価懸念の様相による表情刺激への注意バイアスの差異 健常大学生における検討
3. 学会等名 第47回日本認知・行動療法学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 藤島 雄磨、富田 望、池田 寛人、南出 歩美、熊野 宏昭
2. 発表標題 メタ認知および認知プロセス、認知プロセスおよび気分の関連性の検討
3. 学会等名 第47回日本認知・行動療法学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 松田 尚実、宇佐美 慧、富田 望、南出 歩美、藤島 雄磨、熊野 宏昭
2. 発表標題 過剰適応に関するメタ認知的・道具的信念尺度の作成および信頼性・妥当性の検討
3. 学会等名 第47回日本認知・行動療法学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 村山 由佳、富田 望、藤島 雄磨、南出 歩美、熊野 宏昭
2. 発表標題 反芻と曖昧な被拒絶場面における拒絶予期および拒絶知覚の関連 高拒絶過敏者におけるパイロットスタディ
3. 学会等名 第47回日本認知・行動療法学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Tomita Nozomi, Minamide Ayumi, Kumano Hiroaki
2. 発表標題 Does autism tendency change the effect of field and observer perspective in social settings on clinical symptoms?
3. 学会等名 The 7th Asian Cognitive Behaviour Therapy (Asian CBT) Conference 2021 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Tomita Nozomi, Minamide Ayumi, Kumano Hiroaki
2. 発表標題 Relation between parameters of eye-movements and self/other-focused attention in social situations
3. 学会等名 The 32nd International Congress of Psychology (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Minamide Ayumi, Tomita Nozomi, Kai Keitaro, Kumagai Makoto, Kumano Hiroaki
2. 発表標題 Correlation among social anxiety, attentional biases toward angry faces, and metacognitive beliefs about focused attention.
3. 学会等名 The 32nd International Congress of Psychology (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 富田 望、熊野 宏昭
2. 発表標題 高社交不安者における自己注目と注意バイアスは脳活動と視線にどのように現れるか
3. 学会等名 第13回日本不安症学会学術大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Fujishima Yuma, Takei Yuki, Tomita Nozomi, Ikeda Hiroto, Minamide Ayumi, Kumano Hiroaki
2. 発表標題 A moderation effect of the positive metacognitive beliefs about maladaptive coping behavior between attention ability and clinical symptoms
3. 学会等名 16th International Congress of Behavioral Medicine (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 南出 歩美、富田 望、武井 友紀、梅津 千佳、熊野 宏昭
2. 発表標題 注意の向け方に関するメタ認知的信念が心的視点に及ぼす影響～社交不安傾向者を対象とした予備的検討～
3. 学会等名 日本行動医学会第27回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 富田 望、熊野 宏昭
2. 発表標題 スピーチ中における視覚的注意と視点取得の様相は、翌日のネガティブな反芻を予測するか？ 視線追尾を用いた検討
3. 学会等名 日本心理学会第84回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 南出 歩美、富田 望、武井 友紀、亀谷 知麻記、熊野 宏昭
2. 発表標題 社交不安と表情に対する注意バイアス、および注意の向け方に関するメタ認知的信念の関連性
3. 学会等名 日本心理学会第84回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 富田 望
2. 発表標題 眼球運動および脳機能に基づく自己注目のアセスメントと介入法への展開 自主企画シンポジウム：認知神経科学に基づく新たな介入法を 探る
3. 学会等名 日本認知・行動療学会第46回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 南出 歩美、富田 望、武井 友紀、梅津 千佳、亀谷 知麻記、熊野 宏昭
2. 発表標題 注意の向け方に関するメタ認知的信念が注意の偏りと社交不安症状に及ぼす影響 社交不安傾向者を対象とした予備的検討
3. 学会等名 日本認知・行動療学会第46回大会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------